

平成 26 年度 第 2 回コンクリート常任委員会 議事録（案）

日時：2014 年 7 月 8 日（火）14 時～17 時

場所：高松商工会議所

出席者：二羽委員長、岩波幹事長、綾野、上田、内田、鎌田、河合、佐伯、佐藤、添田、田中、谷村、土谷、名倉、信田、橋本、松田、宮川、睦好、森、森川、横田の各常任委員、石田、小林、下村、濱田、久田、丸屋の各常任委員兼幹事、二瓶

配付資料：

- 2-0 平成 26 年度 第 2 回コンクリート常任委員会 議事次第
- 2-1 平成 26 年度 第 1 回コンクリート常任委員会 議事録（案）
- 2-2 100 周年記念出版誌「日本が世界に誇るコンクリート技術」目次
- 2-3 コンクリート委員会委員構成
- 2-4 示方書改訂小委員会委員構成（案）
- 2-5 規準関連小委員会・委員構成（案）
- 2-6 土木材料実験指導書編集小委員会委員構成（案）
- 2-7 コンクリート教育研究小委員会委員構成（案）
- 2-8 平成 26 年度全国大会開催に伴う研究討論会の企画
- 2-9 平成 26 年度コンクリート委員会一般会計予算（案）
- 2-10 平成 25 年度調査研究委員会の活動度評価の結果および平成 26 年度調査研究費予算配分
- 2-11 鉄筋コンクリート構造の疲労破壊研究小委員会(347)委員構成
- 2-12 鉄筋コンクリート設計システム研究小委員会（340 委員会）第 2 期および社会基盤施設の設計と維持管理の連続システムの構築に関する研究小委員会（344 委員会）合同成果報告会の案内
- 2-13 土木学会 100 周年記念行事の案内とお願い
- 2-14 ConMat'15 講演募集
- 2-15 第 58 回日本学術会議 材料工学連合講演会 講演募集

議事：

1. 委員長挨拶

二羽委員長より挨拶があった。

- ・ 一昨年の笹子トンネル天井板崩落事故以来、昨年、今年と維持管理に関する関心が非常に高まっている。この 7 月からは国交省より道路インフラの近接目視が義務付けられた。
- ・ 先月トルコを訪れ、インフラの視察を行ってきた。昨年にボスポラス海峡を横断する地下鉄が開通したが、イスタンブール市内の渋滞は未だ激しい。現在 IHI インフラシステムが第一・第二ボスポラス橋梁の耐震改修工事を行っているが、交通量を見ると床版疲労も問題になりそうである。また同社はイズミット橋梁の建設も請負っており、海外でのアクティビティが活発である印象を受けた。
- ・ 本日は、100 周年記念出版の内容ならびに 1 種 2 種小委員会の委員構成が主たる審議事項である。また前回の常任委員会に続いて委員からの話題提供を予定しており、本日は綾野委員と橋本委員にお願いしている。

2. 平成 26 年度第 1 回コンクリート常任委員会議事録（案）の確認

小林幹事から、資料 2-1 に基づき内容の確認がなされ、承認された。

審議事項：

1. 100 周年記念出版誌

丸屋幹事より資料 2-2 に基づき、100 周年記念出版図書である「日本が世界に誇るコンクリート技術」の目次案について説明がなされ、審議が行われた。

- ・ 図や写真はこういった状況なのか。

- ▶ カラーで掲載する予定であるが、著作権については確認して必要に応じて担当者に連絡する。

今後のスケジュールについて、以下のとおり丸屋幹事よりアナウンスがあった。

7月中 英文チェックの発注，完了
8月1～10日 執筆者への意見照会
8月15日 印刷業者に原稿提出，版組み開始（約1か月）
9月9日 常任委員会で報告，原稿回覧
9月15～30日 著者校正
10月1日 印刷業者に最終原稿提出
11月1日 出版

英文チェックに要する予算は計上している。既に英訳されているので，それほど費用はかからない見込み。
著者校正の時間が半月と短い，ぜひ協力いただきたい。

最終的な内容については，二羽委員長，丸屋幹事，大内氏，幹事団に一任することが了承された。

2. 1種2種委員会の委員構成，委員追加・交代（二羽委員長）

(1) コンクリート委員会

二羽委員長より，資料2-3に基づきコンクリート委員会の委員構成変更が説明され，認められた。

(2) 示方書改訂小委員会

宮川委員より，資料2-4に基づき示方書改訂小委員会の委員構成（案）が説明され，認められた。今年度は，次回改訂の体制（主査・副査）や基本方針について議論を行う。2017年の刊行というスケジュールを考えると，2015年4月から新たな体制で改訂小委員会を本格的に稼働する必要があるため，資料2-4の体制は今年度限りを目安とする。

(3) 規準関連小委員会

久田幹事より，資料2-5に基づき規準関連小委員会の委員構成案について説明がなされ，認められた。旧委員会の幹事長，各WGの主査を中心に構成した。また現在行われている示方書連絡調整小委員会の議論を反映するために，それらのメンバーも加えている。今年度は，全体的な活動方針を中心に議論する予定である（申し送りの対応と，ウェブ対応，英文対応など）。構想が固まった段階で活動を本格化するが，その時点で新たな体制を作る。

(4) 土木材料実験指導書編集小委員会

二羽委員長より，資料2-6に基づき委員の所属変更について説明がなされ，認められた。

(5) コンクリート教育研究小委員会

二羽委員長より，資料2-7に基づき委員交代について説明がなされ，認められた。

3. 平成26年度全国大会における研究討論会

岩波幹事長から，資料2-8に基づき研究討論会の企画について説明がなされた。前回の委員会での議論を踏まえ，企画の趣旨と話題提供者を固めた。

- ・ 長期耐久性とはどのレベルの耐久性を指しているのか？

- ▶ ローマコンクリートや放射性廃棄物処分などを念頭に置いており，1000年オーダーの超長期耐久性を意味している。長期耐久性とすると，意図するところが十分伝わらないかもしれないので再検討する。

以上の議論を経て，企画が認められた。

4. 平成26年度コンクリート委員会予算計画

岩波幹事長から，資料2-9に基づき予算案の説明がなされた。

- ・ 今年度は，例年多くの予算措置をしている示方書改訂小委員会などの第1種委員会の活動が本格化する段階ではないので，その分国際関連小委員会や示方書連絡調整小委員会などの第2種の委員会に多めに配分している。活発に活動していただきたい。
- ・ 年度途中で予算が不足するなどの場合には，その旨伝えて欲しい。特に異論無く，予算案が認められた。

5. その他

特になし。

報告事項：

1. 平成 25 年度活動評価の結果および平成 26 年度調査研究費予算配分

岩波幹事長から資料 2-10 に基づきコンクリート委員会の活動度評価について報告がなされた。活動度評価の指標として情報発信数があり、コンクリート委員会は 43355 人（行事参加者数 1346 人，出版物購読者数 42009 人）であった。標準示方書が大きく寄与している。2500 人以上が活動度評価ランク A とみなされるが、コンクリート委員会の実績はダントツである。今年度も引き続き積極的な活動をお願いしたい。

- ・ 国際関連小委員会ではニュースレターを発信しているが、こういった内容もカウントして頂けないか。
 - 何をもって活動度を評価するのかというところは研究企画委員会での議論となる。事務的な制約として、様々な活動を全て把握できないという実態もある。ただし補足事項として実績を書くことができるので、直接的に評価に反映されないかもしれないが、情報は発信していきたい。
- ・ 土木学会全体の国際的な活動として、国際センター以外ではコンクリート委員会の活動がしっかりしているところであるので、表に出していくのが良い。
 - コンクリート委員会の中期計画の自己評価においてはニュースレターのことについて触れているが、年度ごとの実績としても出していきたい。

2. 3 種委員会の委員構成

小林幹事から、資料 2-11 に基づき「鉄筋コンクリート構造の疲労破壊研究小委員会（347 委員会）」の委員交代が報告された。

3. 報告会・講習会の実施報告

(1) がれきの処分と有効利用に関する調査研究小委員会 成果報告会（5 月 23 日土木学会）

久田幹事および小林幹事より、当日は 70 名の出席があったこと、また後日 300 部ほどの報告書まとめ買いがあっ増刷に入っている旨、報告された。

(2) トンネル構造物のコンクリートに対する耐火工設計施工指針（案）発刊に伴う講習会（6 月 3 日土木学会）

岩波幹事長より、100 人弱の参加があり、充実した講習会が開催された旨、報告があった。

(3) 345 委員会「セメント系構築物と周辺地盤環境の化学的相互作用に関するシンポジウム」（7 月 3 日土木学会）

石田幹事より、130 人の参加者があり、コンクリートのみならずセメント材料、地盤、原子力など多様な分野からの参加があり、盛況な会であった旨、報告された。

4. 報告会・講習会の開催案内

横田委員から、資料 2-12 に基づき「鉄筋コンクリート設計システム研究小委員会（340）と社会基盤施設の設計と維持管理の連係システムの構築に関する研究小委員会（344）合同成果報告会」（7 月 16 日土木学会）の案内がなされ、積極的な参加が呼びかけられた。

5. その他

(1) 土木学会 100 周年記念行事の案内と式典当日のお願い

岩波幹事長より、資料 2-13 に基づき、11 月 21 日（金）に開催される記念式典（東京国際フォーラム）および記念祝賀会（帝国ホテル 孔雀の間）の案内がなされた。

記念式典当日、事務局職員が式典に専念するため当日の会合を避けて欲しいこと、また式典・祝賀会直前の 11 月 17 日（月）～21 日（金）まで土木学会の会議室・講堂は、100 周年事業関連で予約済みのため了承して欲しい旨、アナウンスがあった。

(2) ConMat'15 講演募集

小林幹事より、資料 2-14 に基づき、ConMat'15 が来年 8 月 19-21 日の日程でカナダ・ウィスラーにおいて実施される旨、アナウンスがあった。また宮川委員より、魚本セッション（シンポジウム）の企画が予定されているので積極的に投稿いただきたい、とのアナウンスがあった。

(3) 第 58 回日本学術会議 材料工学連合講演会 講演募集

小林幹事より、資料 2-15 に基づき、第 58 回日本学術会議材料工学連合講演会が平成 26 年 10 月 27 日（月）、28 日（火）の両日開催され、「コンクリート構造物の劣化、調査、評価の事例」と題したオーガナイズドセッションがあることがアナウンスされた。

(4) 大河津可動堰記録保存検討小委員会の報告会

佐伯委員より、9 月 30 日に土木学会の講堂で実施すること、また 11 月 11 日に長岡で実施する旨のアナウンスがあった。

(5) 国連防災会議

久田幹事より、2015 年 3 月 14-18 日の日程で、国連防災会議が仙台で開催される予定であり、土木学会本部と東北支部とで、サイドイベントとして企画があることがアナウンスされた。日程や場所は現在調整中であるが、がれき処理の情報を世界に発信していく予定である。

次回開催日：

第 1 回コンクリート委員会 第 3 回コンクリート常任委員会 合同会議

2014 年 9 月 9 日（火）14 時-17 時、於：ザ・リッツ・カールトン大阪：ボールルーム（4 階）

同日 12 時から三種委員会連絡会議を開催する。

会議後は懇親会を予定している。

議題は 8 月 26 日（火）までに幹事へ

第一種～第三種委員会の活動報告書についての依頼が追って届くので、関係の方々には対応をお願いしたい。

話題提供：

(1) 「スラグの可能性」（綾野委員）

(2) 「四国の生コン事情」（橋本委員）

以 上